こども大人も 麻しんを疑った際の対応

- 発熱 ＋ 発疹 ＋ カタル症状（咳・鼻汁・結膜充血） ● 口腔内のコプリック斑
- 海外渡航歴 または麻しん患者発生地域への移動歴、接触歴
- ワクチン2回未完了 または 不明

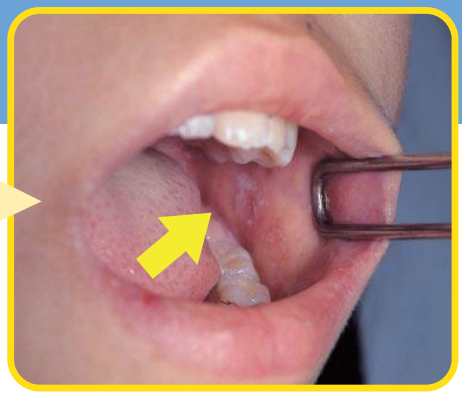
全身性発疹＋発熱＋カタル症状（咳・鼻汁・結膜炎）±流行地滞在

成人例でも重篤になる可能性があります

典型的皮疹
紅色斑丘疹
融合傾向を示す



コプリック斑
頬粘膜に好発



修飾麻しんでは、典型所見に乏しいことがあるので注意！

（修飾麻しんとは、麻しんに対する免疫が不十分な人に生じる、軽症で非典型的な麻しんである）

1 感染対策

- 個室管理対応、患者にマスク着用を促し、扉を閉める（**可能なら陰圧室**）
- 空気感染対策（**原則、N95マスク**）＋標準予防策を行う
- 対応する医療者と接触者を最小化する



2 臨床対応

- ワクチン接種歴聴取、臨床評価、脱水や呼吸管理等
- 合併症：中耳炎、肺炎、下痢等による脱水、脳炎

※ 麻しん患者との接触後、72時間以内に麻しん含有ワクチンを接種すること等によって、麻しんの発症を予防できる可能性がある。

3 連絡・届け出

- 院内ICTへ即時連絡 ● 麻しんと臨床診断したら直ちに発生届提出
- できるだけ早期（発疹出現後1週間以内）に、保健所の指示に基づく検体（咽頭ぬぐい液・尿・EDTA血）を採取し、提出する
- 提出方法は、自治体毎に異なるため、管轄の保健所に問い合わせる

※ 必要に応じてIgM抗体検査も実施するが、発疹出現後3日以内は偽陰性に注意する。

JIHS 国立健康危機管理研究機構

写　真：学校における麻しん対策ガイドラインより
参考資料：医療機関での麻疹対応ガイドライン／第七版
作　成：国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター 国際感染症センター（2026年3月）

麻疹対策・ガイドラインなど

最新の国内発生状況